

鎌倉の埋蔵文化財13

Buried Cultural Properties in Kamakura 13

おおまちしゃかどうぐちいせき
平成20年度大町釈迦堂口遺跡発掘調査の概要



平成22年3月
鎌倉市教育委員会

～ごあいさつ～

大町釈迦堂口遺跡は、釈迦堂口切通一帯に広がる遺跡で、その範囲のなかには谷戸内の平場ややぐら群が含まれています。

鎌倉市教育委員会ではかねてよりこの遺跡を歴史的に重要な遺跡の一つと認識し、分布調査や部分的な確認調査を実施してまいりました。

平成20年には、谷戸内の平場において重要遺跡の確認を目的とした発掘調査を実施したところ、造成の跡や建物跡など、多彩な中世の遺構・遺物が出土し、大きな成果を得ることができました。

『鎌倉の埋蔵文化財13』では、この発掘調査の成果の概要をお知らせいたします。

本誌をご覧になる皆様にも、往時を生きた人々の姿が髣髴としてくるのではないのでしょうか。

なお、鎌倉市教育委員会では毎年、発掘調査関係者のご協力を得ながら『鎌倉の埋蔵文化財』の発行をはじめ、文化財めぐりでの発掘調査現地説明会、鎌倉駅地下道ギャラリーでの埋蔵文化財パネル展示、遺跡調査・研究発表会などの事業を実施して発掘調査の成果を皆様にご紹介しています。

今後も様々な形で発掘調査の成果をお知らせするよう努めてまいりたいと思います。

～目次～

1.	大町釈迦堂口遺跡の立地……………	1
	地理的環境	
	歴史的環境	
2.	発掘調査の成果……………	3
	調査の概要	
	1期の遺構と遺物	
	2期の遺構と遺物	
	3期の遺構と遺物	
3.	やぐらの調査……………	9
4.	調査のまとめ……………	11
	英文要旨……………	12

～例言～

◎本書は平成20年度に実施した大町釈迦堂口遺跡の発掘調査の概要を掲載しました。

本誌は鎌倉市教育委員会文化財課が執筆・編集しました。

《表紙写真》大町釈迦堂口遺跡発掘調査地点全景

◎表紙題字は松尾右翠氏に揮毫をお願いしました。

1. 大町釈迦堂口遺跡の立地

地理的環境

大町釈迦堂口遺跡(鎌倉市No.235)は鎌倉市大町六丁目に所在します。

市内でも大規模な谷戸のひとつである名越ヶ谷の奥にあたり、南に開口する東西2箇所の小支谷と、丘陵地の一部が遺跡の範囲です。

西側の谷奥には、丘陵の岩盤をトンネル状にくりぬいて大町と北側の浄明寺をつなぐ、「釈迦堂口切通(トンネル)」(図2:A)があり、北側の丘陵部分には、地蔵やぐら、唐糸やぐら、日月やぐらなどの有名なやぐらを多く抱えるやぐら群(衣張山やぐら群、釈迦堂口やぐら群、釈迦堂口トンネル上尾根やぐら群:鎌倉市No.81~83)が谷奥の平場を取り囲むように作られています。

今回(平成20年)の調査地点は、遺跡内の東側の谷奥にあり、鎌倉駅から東に約1.3キロメートルの地点にあたります(図1)。

谷戸内は大小の平場が縦壇状に連なり、その多くが住宅地となっています。その中で、今回調査対象となった最奥の2段はこれまで大きな宅地開発が行われずに残っていました。

それぞれの平場の標高差は約12mで、上段から第1調査地点、第2調査地点としました(図2、3)。



図1 調査地点位置図

Fig.1 Map

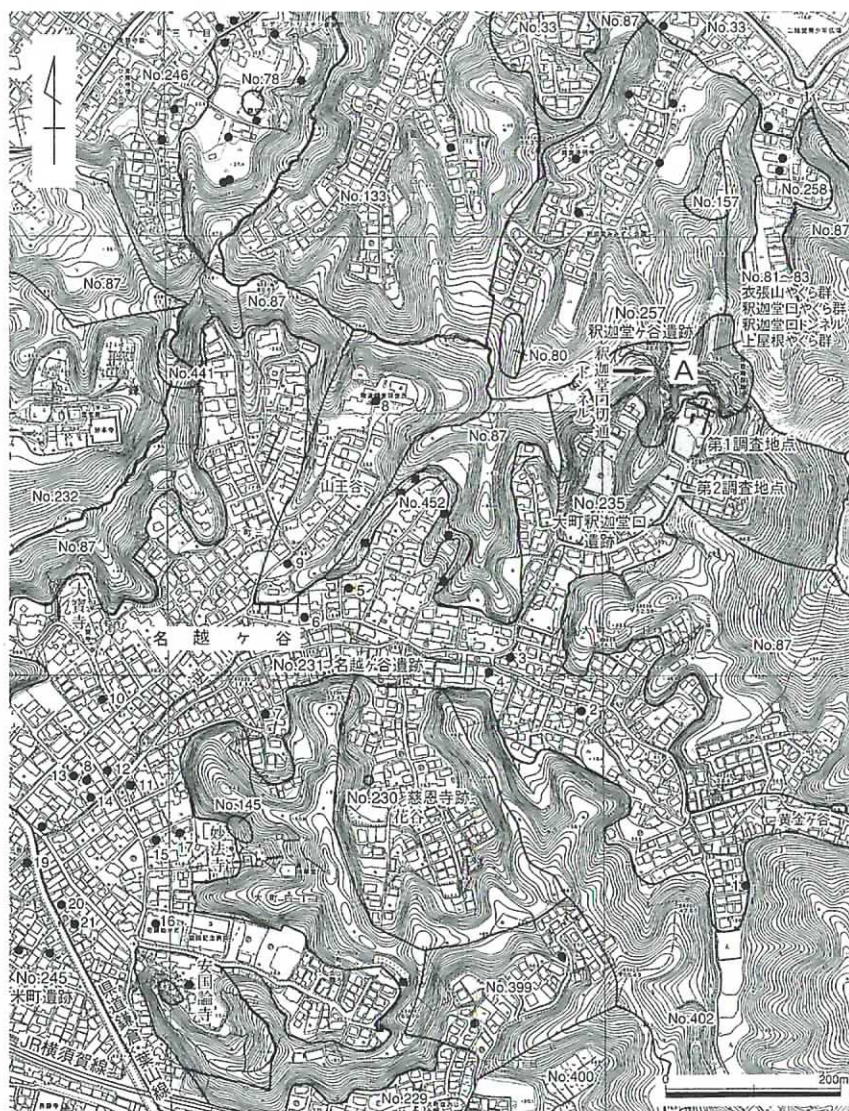


図2 調査地点とその周辺
(●は既調査地点)

Fig.2 Detail map

(●: excavated point already)

歴史的環境

大町釈迦堂口遺跡が所在する名越ヶ谷の「名越」という地名は、鎌倉時代前期には現在の町から材木座までを含む広い範囲を指していたといわれています。名越ヶ谷は「名越」の北端にあたり、中世には、谷戸内に名越山王堂跡、慈恩寺、木束寺、西門寺など多くの寺院が存在していたようです。

これまでに名越ヶ谷の中で行われた発掘調査の成果からは、13世紀後半頃には谷戸内に人が住んで生活していたことがわかっています。谷戸の入り口あたりでは、13世紀前半の遺構や中世以前まで遡る時代の遺物も出土しており、古代には古東海道(註1)が接する交通の要衝であったという、この場所の特徴を物語っています。人々は、次第に谷戸の奥へと居住地を広げていったのでしょう。

今回の調査地点は、この名越ヶ谷の奥にある広い平坦地で、前述のように周囲を多くのやぐらに囲まれています。昭和28年には調査地点付近で庭園の整備中に青磁の鉢が3点出土しており、以来、ここが歴史的に重要な場所であったと考えられていました。

しかし、鎌倉の谷戸にはつきものとも言える中世・近世の寺院伝承は当該調査地点に残されておらず、また、これまでにほとんど発掘調査も行われていなかったため、その実体は不明なままでした。

(註1) 古東海道とは、古代の東海道のこと、江戸時代に整備された五街道の一つとしての東海道とは、ルートが異なっていたようです。

名越ヶ谷付近では、県道鎌倉・葉山線に重なるルートと、県道の南側にある道路に重なるルートが想定されています。

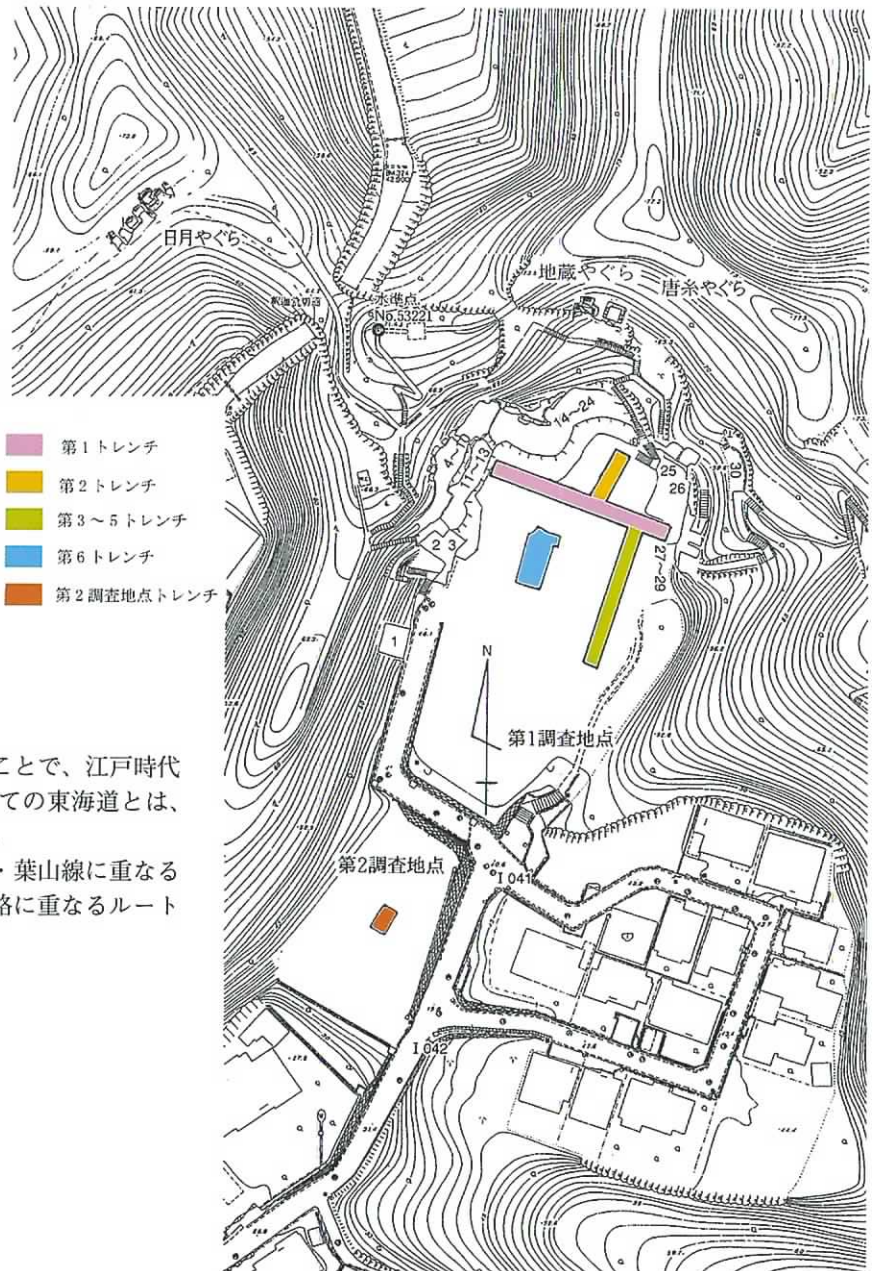


図3 調査区(トレンチ)とやぐら位置図

Fig.3 Excavated area and map of the yagura grottoes

2. 発掘調査の成果

調査の概要

今回の調査は第1調査地点に6箇所、第2調査地点に1箇所の調査区(トレンチ)を設定し、平成20年7月末から12月初旬まで実質4ヶ月にわたる発掘調査を行いました。調査面積は約300㎡です。

調査の結果、13世紀後半から15世紀にかけての遺構・遺物を発見しました。当時の人々も、現代の造成工事のように丘陵の裾を削ったり谷戸の奥を埋めて平場を広げ、生活空間を作っています。当時の生活面は7面確認することができました(表1)。

それぞれの面で出土した遺構・遺物の所属時期は、詳しい検討の結果、大きく3時期(1期～3期)に分けることができました。

また、発掘調査と合わせて、北側の丘陵にあるやぐらの測量・分布調査と、安置されている石塔の大きさや形状を計測しました。

これから、それぞれの時期の詳細な成果について紹介します。

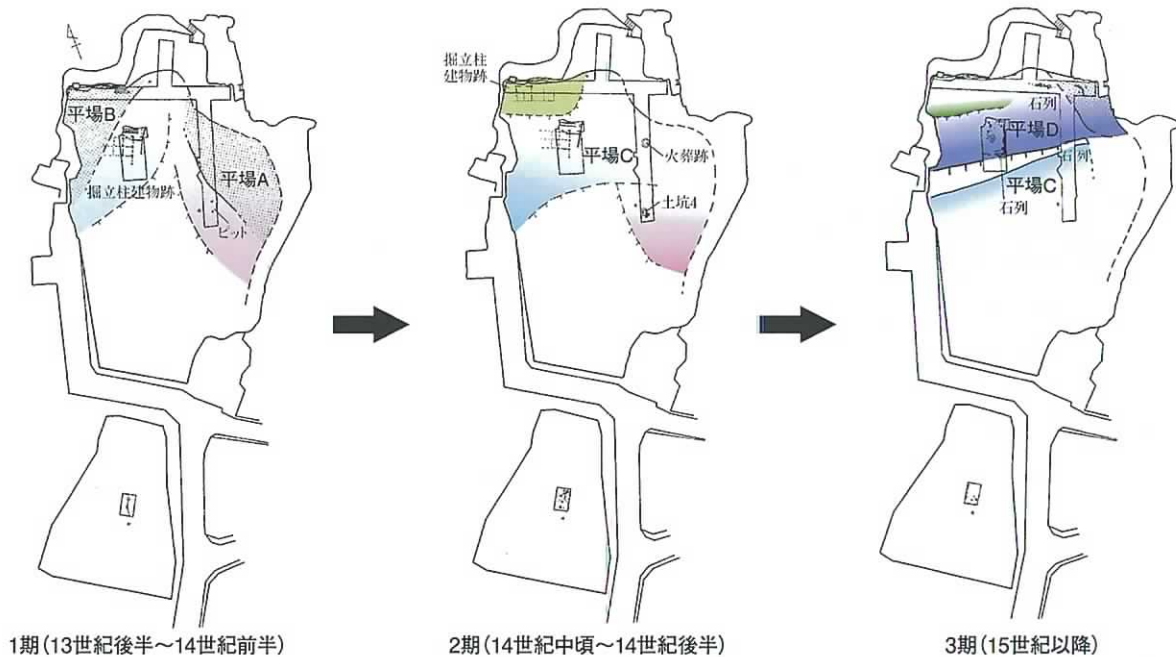


図4 遺構変遷図(網掛は岩盤を削平した部分、色分けは各平場)

Fig.4 Remains map

表1 検出面・遺構 所属時期対応表

List.1 The periods of the remains list

		第1調査地点				第2調査地点	丘陵部 やぐら
		第1トレンチ	第2トレンチ	第3～5トレンチ	第6トレンチ		
3期	15世紀以降	1面 東：石列 溝状遺構 ピット 西：溝状遺構	1面 地山削平面	1面 石積み遺構	1面 ビット、土坑	1面 ビット 土坑	存続 新規築造は なし
		2面 土坑、ピット					
2期	14世紀中頃～ 14世紀後半	3面 溝状遺構		2面 あわせ口かわらけ埋納遺構、 火葬跡 柱穴、土坑	2面 玉石敷き 常滑壺埋納遺構 掘立柱建物跡 ビット群、土坑 ↑ 礎石列 石組み溝 溝状遺構 ↑ 版築	1面 ビット 土坑	最盛期
		4面 柱穴 (掘立柱建物跡)					
		5面 6面					
1期	13世紀後半～ 14世紀前半	7面 溝状遺構		3面 ビット		3面 ビット 土坑 礎石	出現期 (地藏やぐら、 唐糸やぐら)

1期(13世紀後半～14世紀前半)の遺構と遺物

第1調査地点では、この時期に、谷戸の北側奥の丘陵裾を大きく削り、さらに谷の南側の低い部分を埋めて平場を広げていた様子が明らかになりました(図4：平場A・B)。

その平場の中央(第6トレンチ)では、直径40cmを超える大型の柱穴が並んで発見されました。柱穴列が調査区の外にも広がると考えれば、建物の規模は1間×2間以上あるとわかります(写真1)。

この建物の近くには、1m×1mの範囲に玉石を敷き詰めた遺構(写真2)や、凝灰岩の切石を並べて作った溝(写真3)なども存在しています。溝と平行して、上面が平らな安山岩を並べた石列も確認できました。石は20cm×10cmほどの大きさで、約2mの間隔で3個並んでいました。主要な柱の礎石とするには小ぶりなので、縁の東石かもしれません(写真3)。

これらの建物跡がある面の下の土は、断面で見ると版築(註2)された盛土となっており、そのしっかりとした整地の様子から、掘立柱建物が建てられる前には礎石建て建物が建っていたとも考えられます(写真4)。

また、建物の近くでは地中に納められた常滑の壺もみつかっています。壺の中にはかわらけが8枚入っており(大型1枚、中型1枚、小型6枚)、壺の口は2枚のかわらけで蓋がされていました(写真5・6、図5)。

第2調査地点でも泥岩による地形(註3)と礎石列が確認できました(写真7)。



写真1 第6トレンチ掘立柱建物(南東から)

Plate.1 Building (No.6 trench)



写真2 第6トレンチ玉石敷き
Plate.2 Gravel floor (No.6 trench)

写真3 石組み溝、安山岩石列(白丸)
Plate.3 Grooves and stone line with andesite

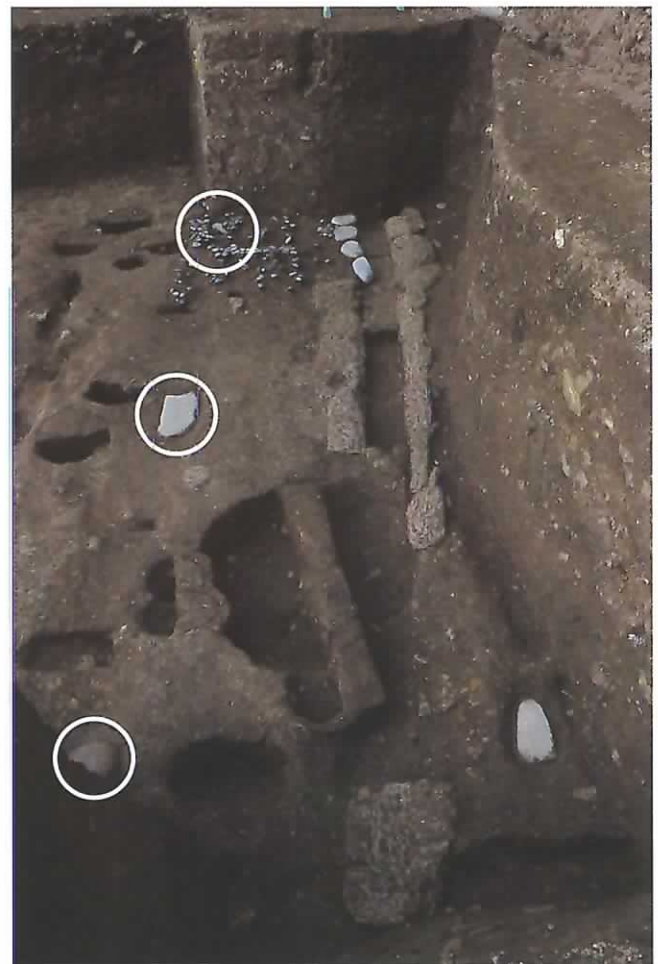


写真4 版築された盛土
Plate.4 Fill

(註2)版築とは、土壁や基壇をつくる方法の一つで、土を何層にも突き固めるため、できあがり非常に頑丈になります。

(註3)地形とは、建物を建てるときに基礎となる礎石や柱を支えるため行われる地固めのことです。



写真5 埋納されていた常滑壺、かわらけ
Plate.5 Tokoname pot and kawarakes



写真6 常滑壺出土状況
Plate.6 Tokoname pot



写真7 第2調査地点礎石・泥岩地形(南から)
Plate.7 Foundation stone and dirt

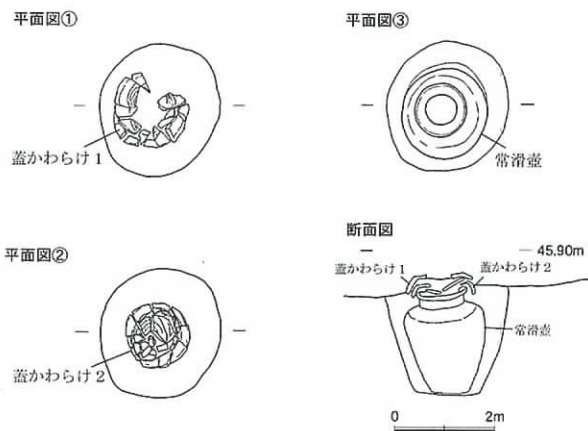


図5 常滑壺・かわらけ出土状況実測図
Fig.5 Tokoname pot and kawarakes

2期(14世紀中頃～14世紀後半)の遺構と遺物

この時期にも第1調査地点中央の平場では1期から引き続き建物が建てられていたようです。

東側は大規模に盛土造成が行われて地面がかさ上げされ、東西が一体の平坦地となりました(図4:平場C)。その上面では、土を掘りくぼめた中から焼けた石や土、骨の破片などが出土し、火葬が行われていたことが判明しています(写真9)。

火葬跡に隣接して、大型のかわらけ2枚を合わせて埋納した遺構も発見しました。目的は不明ですが、地鎮など、まじないの跡かもしれません(写真8)。

北西側にも建物の痕跡が確認でき(図4:掘立柱建物跡)、同時期に数軒の建物が営まれていた様子もわかります。岩盤際に作られていた溝からは焼けた土や炭が出土し、ある時期に火災があったとも考えられます。

一段下の第2調査地点では泥岩による整地層と、その上から掘られた柱穴などが出土しました。

この時期は、調査地点の周囲を取り囲むやぐらが築造の最盛期を迎えた時期でもあります。



写真8 合わせ口かわらけ出土状況
Plate.8 Kawarakes



写真9 火葬跡全景(北から)※左下は合わせ口かわらけ
Plate.9 Full view of the cremation

3期（15世紀以降）の遺構と遺物

この時期にも平場の造成は続いています。第1調査地点では、東側に迫る丘陵を削平して平場を更に広げるとともに、北側では1 m近く盛土をしてさらに一段高い平場を作り出しています（図4：平場D）。

盛土の端部には凝灰質砂岩（鎌倉石）で土留めの石積みが作られていました（写真11）。また、削って平らにした岩盤面には、溝や、柱穴のような小さい円形の掘り込みがあり、建物の存在が推定できます（写真10）。

しかし、1期や2期に見られたような平場中央の建物は既にこの時期には営まれておらず、火葬が行われた形跡も見られませんでした。

やぐらも新たな築造はなくなり、14世紀代までとは谷奥全体の土地利用が異なっていた可能性があります。

第2調査地点では、泥岩による整地が行われており、人々の生活が引き続き営まれていました。



写真10 第1トレンチ東端 岩盤上遺構(北西から)

Plate.10 Remains



写真11 石積み遺構正面(南から)

Plate.11 Piled stone wall

3. やぐらの調査

今回、発掘調査とあわせて周辺に多く存在するやぐらの分布・測量調査と石塔の調査も行いました。

分布調査では、これまでに確認されていなかったやぐら29基を新たに発見しました(図3：1～29号やぐら)。これにより当該地に存在するやぐらは、今回の調査地点に面するものが33基、西側の谷に面するものが31基、総数64基となりました。この数は、市内でも大規模なやぐら群と言えます。

石塔の調査では、今回の調査地点を取り囲むやぐらに安置された石塔のうち、最も古いものは地蔵やぐらの五輪塔で、14世紀前半ごろの制作であるということが判明しました(図7)。

おそらくこの場所では、14世紀前半から地蔵やぐらや唐糸やぐら、日月やぐらなどのやぐらがつくられ始め、14世紀中頃から後半にかけて築造の最盛期となったのでしょう。調査区西側の丘陵に存在する多くのやぐらはそのときつくられたと考えられます。

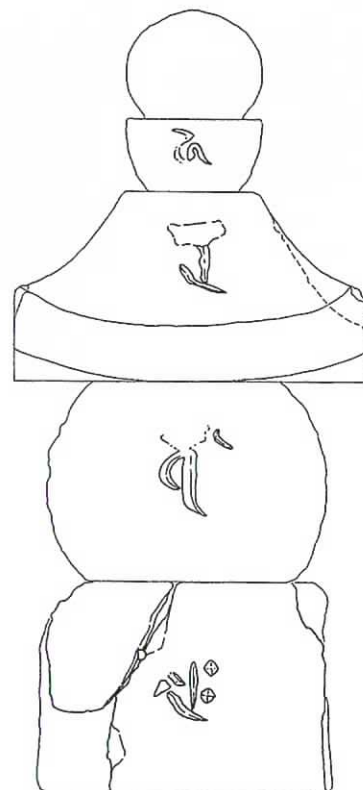


図7 地蔵やぐら内五輪塔

Fig.7 Stone stupa in Jizo yagura grotto



写真12 地蔵やぐら(図7は左側の五輪塔)

Plate.12 Jizo yagura grotto



写真13 日月やぐら

Plate.13 Jitsugetsu yagura grotto

写真14 第1調査地点西側
4～10号やぐら

Plate.14 No.4～No.10 yagura grottoes



写真15 第1調査地点西側
18～20号やぐら

Plate.15 No.18～No.20 yagura grottoes

4. 調査のまとめ

今回の調査では、13世紀後半から15世紀代にかけての土地利用の様子が明らかになりました。誰が住んでいたかといった具体的なことはわかりませんが、第1調査地点の平場中央で確認された建物跡は、近くから玉石が敷かれた遺構が出土するなど、庶民の住宅ではなく、より格の高い建物であった可能性があります。

さらに、建物と同時期に調査地点を取り巻くようにやぐらが作られていたことや、2期には建物の東側で火葬が行われていたことなどを考え合わせると、住宅というよりは宗教的な施設であったと考えるのが妥当ではないでしょうか。もしかしたら、まだ知られていない寺院があったのかもしれない。

下の写真は、発掘調査の数年前に撮影した調査区上空からの写真です。谷戸の奥まで宅地化が進んでいる中であって、調査地点(矢印先端)は緑が残っていることが見て取れます。このような場所は市内でも珍しく、今回の調査で重要な遺構も確認されたことから、将来は一帯を史跡として保存していきたいと考えています。



写真16 名越ヶ谷周辺の航空写真(平成16年撮影)

Plate.16 Aerial view of Nagoegayatsu

Buried Cultural Properties in Kamakura 13

1. The location of the Omachi-Shakadoguchi-Iseki Site

Geographical environment

Omachi-Shakadoguchi-Iseki Site is located at the back of Nagoegayatsu valley in Omachi 6-Chome Kamakura. The excavated area is located at the deep inside the eastern valley. Until now, this area has not been developed.

History

From the results of the excavations in the past, people have settled at Nagoegayatsu in the late 13th century. Some remains in the beginning of the 13th century and the relics from the older ages were discovered at the entrance of the valley. Those things show that it was an important place by the Old-Tokaido highway road in the 8th century. Probably, people had gradually spread their domicile into the valley.

However, the substance had been unknown, because there were no temple tradition and excavations had not been done until 2008.

2. The results of the excavation

The outline of the excavation

The excavation had been done for four months from the end of July to the beginning of December 2008. The total area of 300m² were excavated that consist 2 points (7 trenches). As a result, some remains and relics from the end of 13th century to 15th century were discovered.

The remains and relics of the First Period (13th century and 14th century)

Some large postholes over 40cm in diameter were found (No.6 trench). If the line of the postholes existed the outside of the excavated area, the scale of the building was over 1×2 rooms (Plate. 1).

Near this building, there are 1m×1m gravel remains (Plate. 2) and the groove with cut tuff (Plate. 3). The stone line with flat andesite was discovered along the groove. There were three 20cm×10cm stones which were lined up at 2m distance. That could be the bed stones of the porch because of too small for foundation of the main pole. In addition, a Tokoname pot covered by two kawarake lids was found from the ground. Some kawarakes were in the pot (Plate. 5).

The remains and relics of the Second Period (14th century)

In this period, some buildings were constructed at the center of the flat place in the valley. It became the flat space from east to west because of the development with fill at the east side (Fig. 4). Fired stone, dirt and bones were excavated from there, so it turned out that there was crematory (Plate. 9). The remains with two large kawarakes were found next to the crematory. The purpose was unknown, but it could be a vestige of a spell (Plate. 8). A trace of a building was located on northeast side (Fig. 4). A lot of yagura grottoes around the point

were made in this period.

The remains and relics of the Third Period (after 15th century)

The hill on the east side was cut became new flat place. On the north side, other flat place was made with 1m fill (Fig. 4 : Flat place D). The piled stone wall with Kamakura stone was made on the edge of the fill (Plate. 11). There were grooves and small postholes on the surface of the flat rock. Therefore, it is supposed to be the building there (Plate. 10). New yagura grottoes had not been made in this period, so it is assumed that the purpose of the valley use was different from previous century.

3. Investigation of yagura grottoes

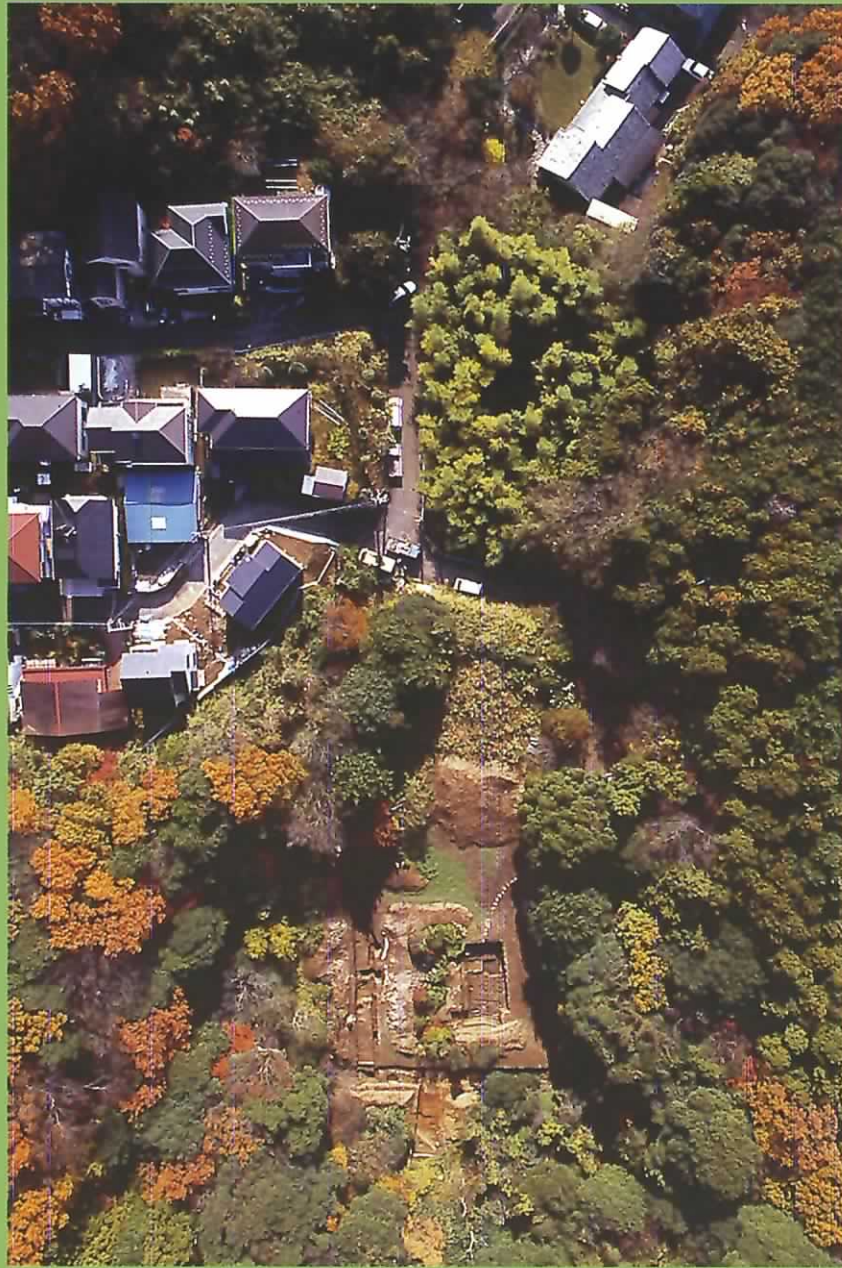
The yagura grottoes and stone statues around the excavated area were also investigated. There are 64 yagura grottoes including 29 yagura grottoes newly discovered (Fig. 2 : No.1~29 yagura grottoes). About investigation of stone stupas in yagura grottoes, the oldest one in Jizo yagura grotto seems to be built in the early 14th century (Fig. 7). Jizo, Karaito and Jitsugetsu yagura grottoes were probably made from the early 14th century.

4. Summary of this excavation

The vestige of the building assumes to be the high status building or religious facility such as a temple instead of commoner housing because the gravel remains, a lot of yagura grottoes and the vestige of cremation were excavated. This excavated area with the precious sites was very rare. Therefore, this place is planed to preserve as a national historic site.



常滑 蔦口壺出土状況
Plate.17 Tokoname pot



大町釈迦堂口遺跡発掘調査地点全景

鎌倉の埋蔵文化財 13

発行日 平成22年3月31日
編集・発行 鎌倉市教育委員会
印刷 中川印刷株式会社
